

2018年9月3日

朝礼の話 (2018年9月)

皆さんお早うございます。今年の夏は、異常に暑い日が続きました。最高気温が 35℃を超える猛暑日は何日も続き、30℃から下がらない厳しい夜もあり、多くのお年寄りが熱中症で亡くなられています。今週は台風 21 号の影響で気温は一時的に下がりますが、その後 33~34℃の暑い日が続くとのこと。まだまだ本格的な秋の到来には時間がかかりそうです。この厳しい夏を過ごす間知らず知らずの内に体力を消耗しています。これから夏の疲れがどっと出てくる時です。少しばかり過ごしやすくなって来ましたが、まだまだ油断せず、十分な睡眠、適当な栄養と水分補給に心がけましょう。

先月 27 日、北米自由貿易協定 (NAFTA) の見直しを巡る米国とメキシコの 2 国間協議が大筋で合意しました。自動車関税ゼロを維持する条件として現地での部品調達比率を引き上げるほか、米国製部品の購入拡大を事実上義務付ける条項を新設しました。カナダを含む 3 カ国で最終合意できるかが焦点となり、米国とカナダは 8 月末を期限として NAFTA 再交渉の協議を続けましたが、自動車については合意を得たものの米国が撤廃を求める乳製品の保護策や貿易紛争の解決制度に隔たりがあり、月末までの合意に達せず、9 月中の妥結を目処に 9 月 5 日から再協議に入ることとなりました。日系自動車各社は日米貿易摩擦や円高への対応策として、米国での現地生産比率を 5~6 割程度まで高めるとともに、NAFTA の下で関税の掛からないメキシコとカナダを米国への輸出拠点にして来ました。2017 年に米国で販売された日本車 670 万台の内 69 万台がメキシコ、77 万台がカナダから米国に輸出されました。メキシコの自動車生産台数は全体で 407 万台、その内日系 133 万台、米系 176 万台となっており、270 万台が米国に輸出されています。カナダでは全体で 220 万台、その内日系 100 万台、米系 117 万台となっており、189 万台が米国に輸出されています。米国とメキシコの主な合意内容は、自動車関税をゼロにする条件として米国とメキシコからの部品調達比率を 75%以上 (現状はカナダ含め 62.5%) に高めるものであり、時給 16 ドル以上の地域で製造された部品・部材を 40~45%使用する「賃金条項」が新設されました。メキシコの自動車産業の時給は 7 ドル程度であり、この条項は事実上米国製部品・部材の購入を強制する「バイ・アメリカン条項」といえます。上記の合意と合わせ、自動車貿易で禁じ手ともいえる事実上の数量規制についてメキシコが受け入れたと報じられています。17 年の対米乗用車輸出は 170 万台で、数量規制枠 240 万台まで未だ 4 割程度の成長余地はありますが、4~5 年で数量枠に達する可能性があります。米国とカナダの再協議の推移如何で日系自動車各社の NAFTA 内生産体制が大混乱に陥る可能性もあり、各社の生産戦略の抜本的な見直しは必至となります。今月下旬に開かれる日米貿易協議 (FFR) で日本にも自動車の輸出数量規制を持ちかけてくるとの懸念もあります。トランプ大統領の自国第一主義、保護貿易主義の矛先が日本にも向けられる懸念は拭えません。今後の日米貿易協議の大きな懸念材料になると思われま。 以上